

学校ぐらし — 廃校舎の活用 —



21810149 小出智絵

・コンセプト・

繋がる暮らし

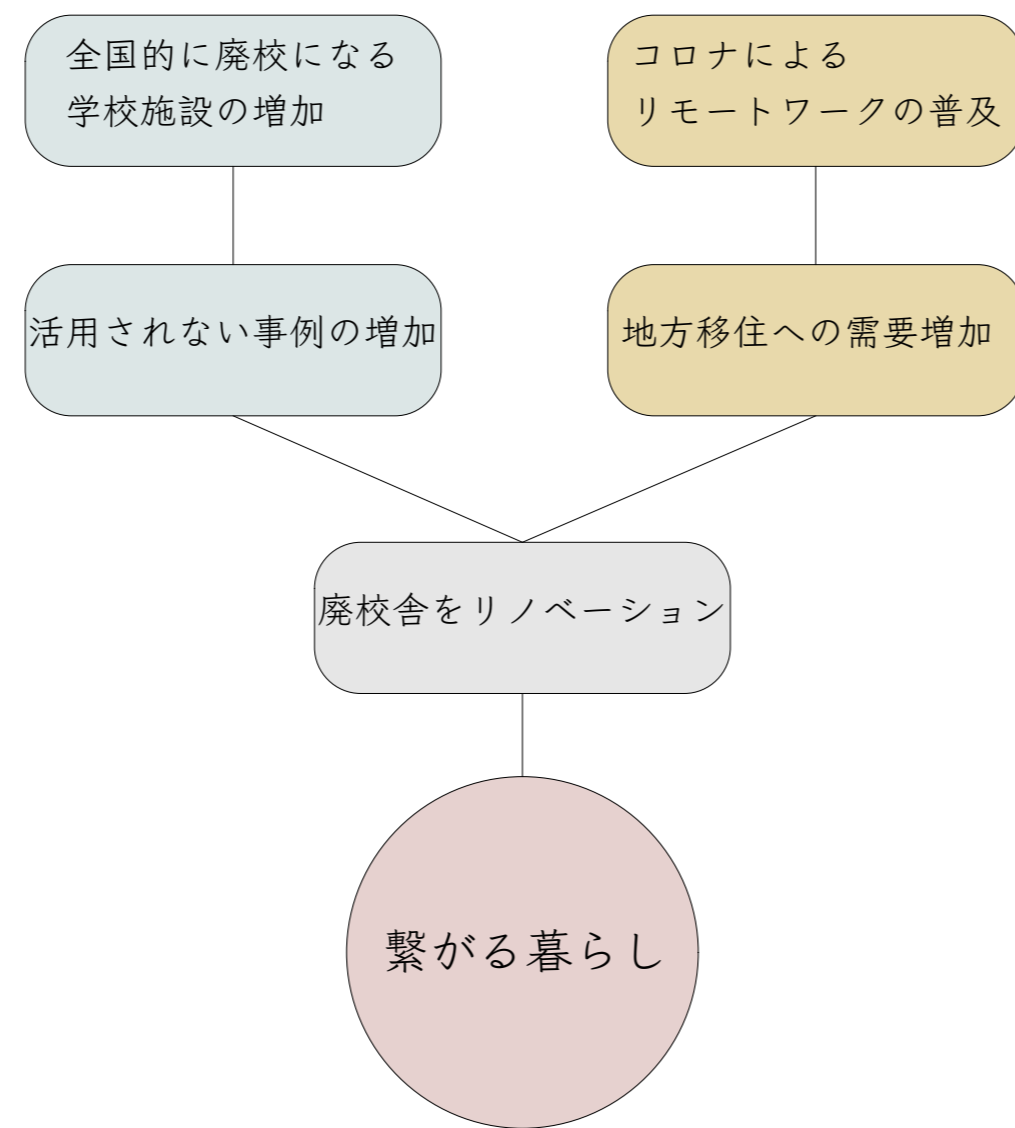
近年、廃校になる小学校が増加しており、活用されないまま放置される校舎も多い。小学校の多くは地域の中心に配置され、住民にとっての憩いの場として長年地域に愛されてきている。

また、新型コロナウイルス感染症の影響から地方移住への関心が高まっているが、地域のことを知らずに移住するのはハードルが高いという問題もある。

そこで廃校舎を住居や地域の人が集まれる空間に活用することで学校施設を次の世代に継ぎ、地域の人も繋がり生まれる。

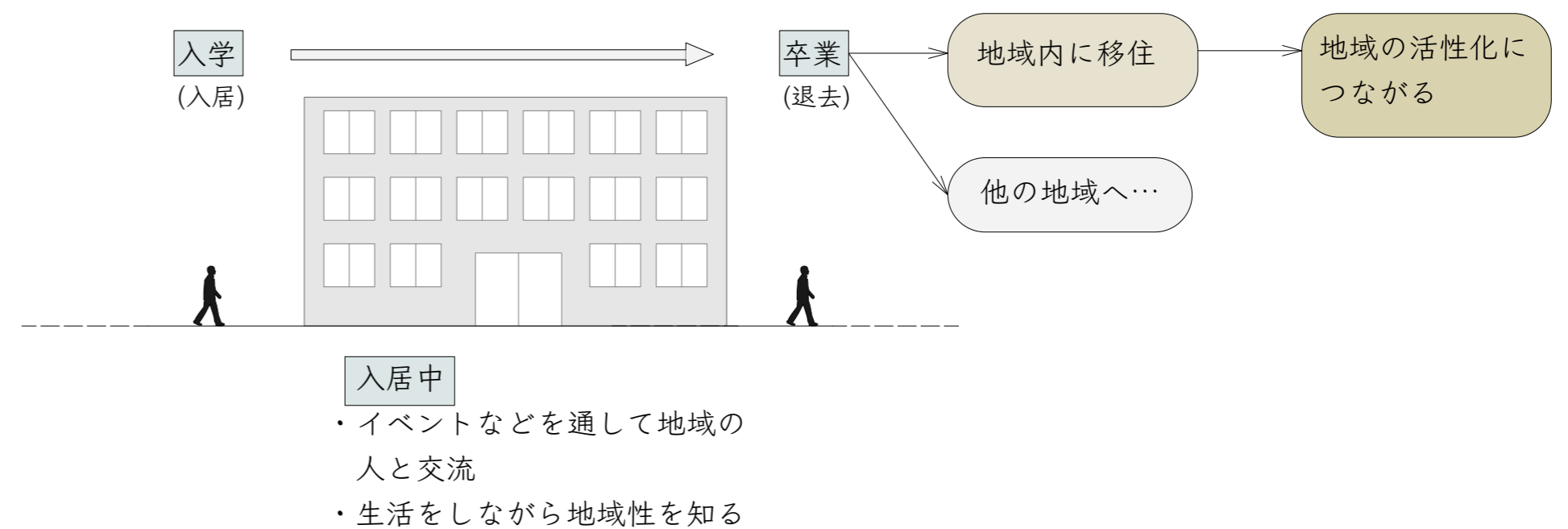
卒業制作では

- ①廃校舎の教室を住居に活用するモデルプランを提案する
- ②モデルプランを用いて実際の廃校舎のリノベーションプランを提案する。



・循環システム・

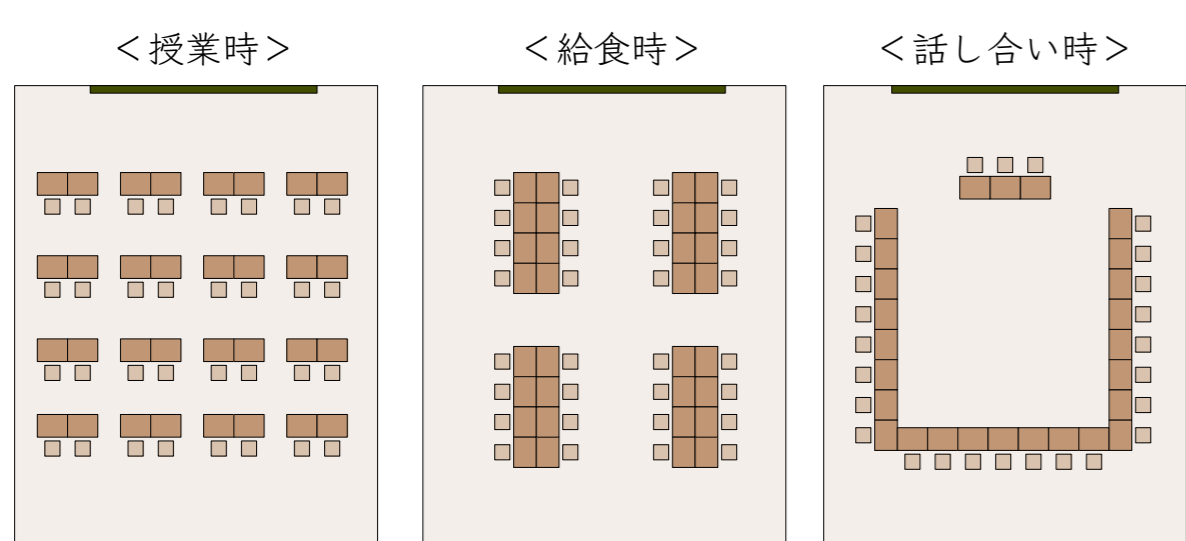
同じ人が長く住み続けるのではなく、より多くの人が学校で暮らす体験ができるよう最長でも6年で卒業(退去)し、住人が循環していく賃貸システム。入居中には地域の人と共にイベントなどを行い交流をしながらその地域を知ることができる。地域の人にとっても様々な世代の人と交流ができ地域の活性化にもつながる。



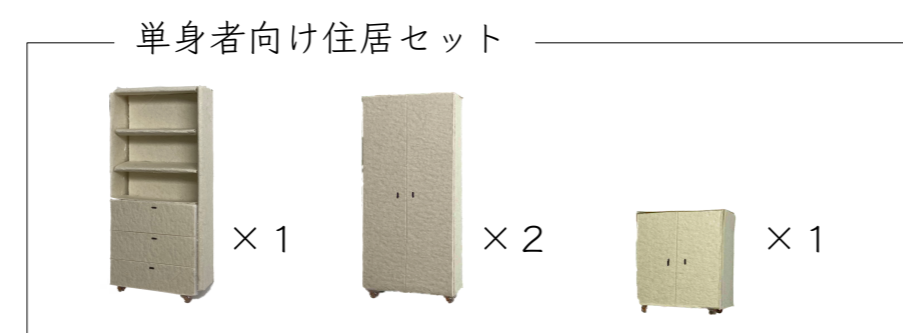
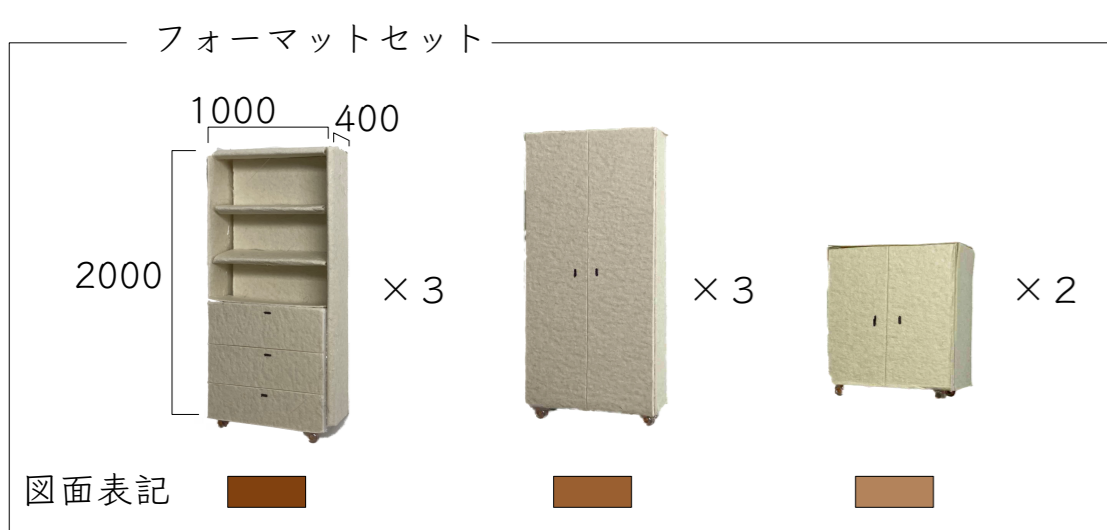
・モデルプラン・

全国的に小学校の教室寸法は似ていることから、7m×9mを枠組みとする教室を住居に活用するプランを提案。

教室のイメージ... 机や椅子を用途に合わせて移動させる



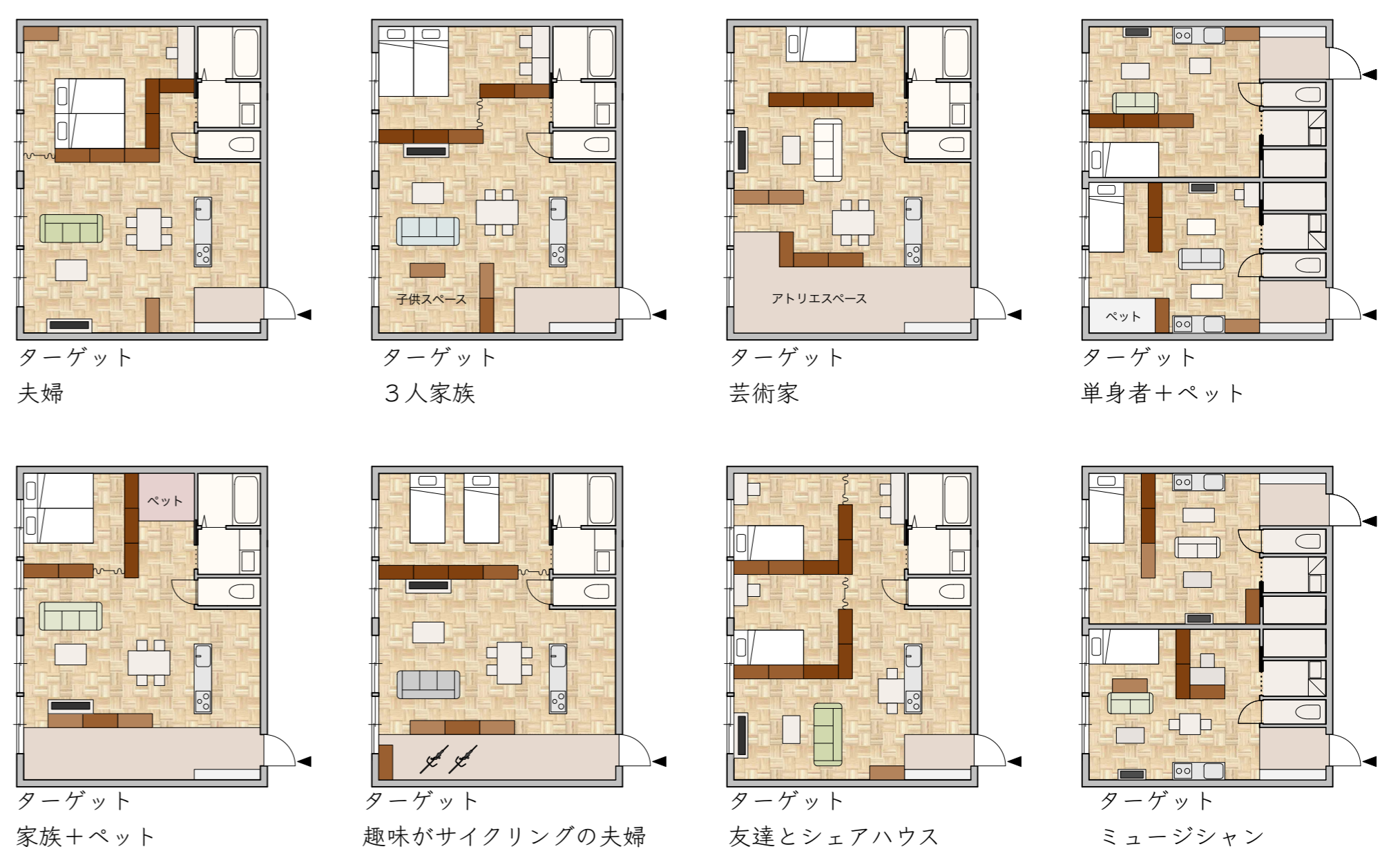
水回りの位置は固定し、3種類の可動式収納付き間仕切り壁で住人が自由に部屋をレイアウトする。計8個のフォーマットや単身者向け住居セットなどを中心にレイアウトを考える。



※プラスで仕切り壁を必要とするときは 賃料に+αして支払う



<レイアウト案> 1:150



・計画敷地・

旧北条小学校

茨城県つくば市北条

構造: 鉄筋コンクリート
階数: 地上3階 面積: 2932㎡

廃校の経緯
2018年に秀峰筑波義務教育学校(小中一貫校)が開校したことにより統合されたため廃校となった。

